所属・氏名（　薬学部　薬学科　氏名：堀　隆光　）

	著書、学術論文等の名称	単著共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概　　要
1	The Role of RASGRP2 in Vascular Endothelial Cells—A Mini Review 筆頭論文	共著	2021 年 10 月	Int. J. Mol. Sci. 22, 11129	グアニンヌクレオチド交換因子である RASGRP2 について、血管内皮細胞における その発現と役割に焦点を当て、 RASGRP2 が健康な血管を維持するための保護因子として機能することを概説する。8 頁 Jun-ichi Takino, Shouhei Miyazaki, Kentaro Nagamine, Takamitsu Hori 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
2	Intracellular Toxic AGEs (TAGE) Triggers Numerous Types of Cell Damage	共著	2021 年 3 月	Biomolecules 11(3): 387	生活習慣病（LSRD）の発症/進行に関与している大量の糖の習慣的な摂取は、神経細胞、肝細胞、および心筋細胞において、糖代謝の中間体であるグリセルアルデヒド（GA）の過剰産生を誘発する。GA と細胞内タンパク質との反応により、有毒な終末糖化産物（TAGE）が生成され、その蓄積がアルツハイマー病、非アルコール性脂肪性肝炎、心血管疾患などのさまざまな疾患の原因となる。このレビューでは、細胞内 TAGE レベルと多くの種類の細胞障害との関係について概説し、「TAGE 理論」の斬新なコンセプトは、LSRD の研究に新たな展望を開くことが期待される。19 頁 Masayoshi Takeuchi, Akiko Sakasai-Sakai, Takanobu Takata, Jun-ichi Takino, Yoshiki Koriyama, Chigusa Kikuchi, Ayako Furukawa, Kentaro Nagamine, Takamitsu Hori and Tamihide Matsunaga 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
3	RasGRP2 inhibits glyceraldehyde-derived toxic advanced glycation end-products from inducing permeability in vascular endothelial cells （直近 3 報のみ記載）	共著	2021 年 2 月	Sci. Rep. 11: 2959	終末糖化産物（AGEs）は、糖とタンパク質の非酵素的反応によって形成される。 AGEsの中で、グリセルアルデヒド由来の毒性AGEs（TAGE）は、糖尿病性網膜症（DR）などの糖尿病合併症を含むさまざまな疾患に関連している。 DRを発症するリスクは、血糖コントロール不良と強く関連しており、AGEsの蓄積を引き起こし、AGEによって誘発される血管透過性を高める。我々は以前に、RasGRP2が、さまざまな要因にさらされたときの毒性に対する細胞応答に重要な役割を果たす可能性があることを報告している。しかしながら、RasGRP2が血管内皮細胞におけるTAGEの悪影響を防ぐかどうかは不明である。この研究は、TAGEがROSおよび非ROS経路などの複雑なシグナル伝達を介して接着結合および密着結合を破壊することにより血管透過性を増強することを明らかにした。また、RasGRP2は接着結合の破壊を保護し、それによって血管の透過性亢進を抑制した。これらの結果は、RasGRP2が血管透過性の必須の保護因子であり、AGEs誘発性DRの新しい治療戦略の開発に役立つ可能性があることを示している。10頁 Jun-ichi Takino, Takuma Sato, Takumi Kanetaka, Kasumi Okihara, Kentaro Nagamine, Masayoshi Takeuchi, Takamitsu Hori 共同研究につき本人担当部分抽出不可能

令和　4 年　6 月　1 日　　現在